

Asia OA Meeting 2019 参加報告

- 日程： 2019年3月6日（水）～7日（木）
- 会場： Bangladesh Agricultural Research Council, Dhaka, Bangladesh
- 報告： 中谷 昇（JPCOAR 広報普及作業部会・鳥取大学）

1 概要

2019年3月6日から7日にかけて、バングラデシュの首都ダッカで、オープンアクセスリポジトリ連合（COAR）およびバングラデシュ農業研究協議会（Bangladesh Agricultural Research Council, BARC）の主催する Asia OA Meeting 2019 が開催された。オープンアクセス（OA）・オープンサイエンス（OS）の最新動向と各国活動の情報共有、コミュニティの醸成、開催



会場となった BARC

国バングラデシュの活動発展などを主な目的として開催されたものである。筆者は、1日目の Technical Session-4 において、JPCOAR を中心とした日本のオープン化推進に係る活動状況の報告を行い、また各参加者と交流し情報交換を行った。

2 各セッションの内容

2.1 Inauguration Session～Technical Session-2

会議の開始にあたり、バングラデシュの情報担当大臣より挨拶がなされた。その中では、情報環境の急速な展開を迎える中で、バングラデシュはビッグデータ・オープンデータ、ロボット工学、AI、ブロックチェーンなどを柱として、加速度的な発展を目指すものであり、そのために当会議の成果へ期待を寄せている旨が述べられた。



会場垂幕

Technical Session-1 では、Kathleen Shearer 氏（COAR）より OA・OS の現況について報告がなされた。各国政策あるいは各機関の方針、ゴールド OA へのフリッピングやジャーナルに頼らない学術情報流通、評価システムの変革など、オープン化を巡る様々な話題を紹介した上で、OA・OS の展開には関係者それぞれの働きかけが必要であり、各人の声が次なる発展の一助となるとされた。

続く Session-2 では”Open Education: Focus on Bangladesh”と題し、Mostafa Kamal Azad 氏（Bangladesh Open University）より教育資源のオープン化の必要性が説かれた。特にバングラデシュの多くの学生が経済的事情により不十分な学習環境に立たされていることに言及し、適切なライセンスでの教材公開とその活用を推進すべきと訴えた。

2.2 Technical Session-3: Institutional roles in supporting open science

Session-3 では、”Institutional roles in supporting open science”をテーマに、Dilara Begum 氏 (East West University)、船守美穂氏 (国立情報学研究所) より発表された。

Dilara 氏は、OS が研究者のキャリア形成や評価、出版の質保障、政策的議論など様々な仕組みに影響を及ぼすとした上で、機関の役割としてプラットフォーム整備、方針策定、教育・啓発、キュレーションサービスなどを列挙し、OS の推進にはそれらのもたらす利益を明確にした啓発活動を行うべきとした。特に啓発とキュレーションに関連して、East West University の事例として、OA リソースを体系的にまとめたプラットフォーム”Department Wise Resource Portal¹”による啓発活動や、所属研究者の論文投稿先の観察による粗悪学術誌への投稿防止などの取り組みについて紹介された。



会議の様子

船守氏からは、特に研究データ管理 (RDM) について焦点が当てられ、データストレージの整備や研究の透明性・可視性確保とアクセスの提供、学术界と一般社会との接続などが機関の役割として挙げられた。また、RDM のためには機関内でのステークホルダー同士の連携が必要であるとして、その中で大学図書館は、より広範な学術コンテンツの収集とそのオープン化促進、適切なメタデータ管理とデータキュレーションに基づく新たなサービス提供など、これまでの活動を礎とした新しいパラダイムへの展開を目指すべきとされた。

2.3 Technical Session-4: Asian Country Updates(representatives of Asian country)

1 日目最後の Session-4 では、インド、バングラデシュ、日本より、各国の概況が報告された。当初はミャンマー、ネパールからも報告が予定されていたが、欠席等により上記 3 か国のみの発表となった。

Vrushali Dandawate 氏 (DOAJ) は、自身がアンバサダーを務める DOAJ の活動も交えつつ、インドの現況を報告した。特にインド発の OA ジャーナルの話題では、DOAJ へ登録申請される件数は年平均で 500 件前後に上るが、要件を満たしていない、あるいは質的に疑わしい場合が多く、その 9 割近くが却下されると紹介され、ローカルな学術出版における知見や事例・実績の不足が指摘された。これに関連した課題として、インドが粗悪学術誌の巣窟という印象を与えてしまっていると指摘し、OA ジャーナルが金策や業績作りのための土壌と化している状況を止めなければならないと訴えた。

開催地であるバングラデシュの報告は、当会議のコーディネーターでもある Susmita Das 氏 (BARC) からなされた。情報化政策”Digital Bangladesh”による情報環境の急速な普及に触れた上で、政府主導の情報アクセス環境の改善による研究・経済・公共サービス等向上

を目指す”Access to Information (a2i) 2”プログラムと、そのプログラムのひとつである政府のデータポータル” Bangladesh Open Data³”を挙げ、オープン化の一步を踏み出していると紹介した。一方で、バングラデシュの基幹研究である農業系の研究データについて、特に国立研究所等では未だデータの整理・蓄積・公開が十分になされていないため、方針策定による利活用促進を推し進める必要があると述べた。



発表後の記念品授与

日本からは筆者が、JPCOAR の活動を中心に報告した。時間の都合で質疑応答は省略されたが、JAIRO Cloud による全国的なリポジトリ構築環境の整備や、RDM トレーニングツール・JPCOAR スキーマの開発・活用、担当者向けの研修プログラムなど、特徴的な取り組みに関心が寄せられた。

2.4 Technical Session-5: Open Research Data and Creative Commons in Bangladesh

2日目最初のセッションでは、Nurunnaby Chowdhury 氏 (Centre for Open Knowledge) より、CC ライセンスとその活用について紹介された。Technical Session-2 でも、教材のオープン化に際し CC ライセンスの活用 (最低でも CC BY-NC-ND) が呼びかけられたが、こちらでは、既にライセンス下で公開されているバングラデシュ発の教科書・画像・動画・音声データ等も紹介され、教育・研究において更に幅広く積極的な利活用を推進したいと話された。

また同セッションにて、Susmita 氏よりバングラデシュの研究データオープン化推進の提言がなされた。こちらでは、改めて OA・OS の概観がなされた上で、Session-4 と同様に OA 方針による国内農学研究のデータのオープン化が提案され、またデータの再利用性や相互運用性を担保するフォーマットの必要性にも言及された。

2.5 Technical Session-6: breaking down silos – global alignment and interoperability ~ Concluding & Recommendation Session

Session-6 では、Kathleen 氏より COAR Next Generation Repository について、山地一禎氏 (国立情報学研究所) より日本のリポジトリネットワークについて、武田英明氏 (国立情報学研究所) より識別子を中心とした OS の相互運用性について、それぞれプレゼンされた。

Kathleen 氏からは、Next Generation Repository 構想の概説がなされ、独立的で相互運用性の低い silo 型のリポジトリサービスを持つことを止め、世界規模でのリポジトリ基盤の共有と協働によって OS を推進することが提案された。山地氏からは、近年の日本のリポジトリネットワークについて、主に JAIRO Cloud と開発中の WEKO3、および JPCOAR

スキーマの開発・適用の話題を中心に紹介された。武田氏の発表では、将来的な **Data Supply-chain** な研究スタイルを見据え、その基盤となる相互運用性を担保する識別子について、特に日本における **JaLC-DOI** の運用・連携体制や、**ORCID**・**KAKEN ID** などの研究者識別子の活用を中心として話された。

Closing Session では、現地の参加者から、**OA** 方針の策定や、ライセンスの利用拡大、リポジトリのアップデートなど、 **Bangladesh** の発展のために様々な問題に取り組むよう求める声が上がった。また、今回の会議のように、**OA**・**OS** 推進に関わる者同士が、引き続き国境を越えて協力し、活動を展開させることが必要であると呼びかけられた。

3 総括

全体として **Bangladesh** の **OS** 推進のための契機という趣を強く感じた会議だった。結果的に開催地外からの参加者が少なかった、ということも影響してはいるが、最も大きな要因は主催団体のひとつである **BARC** および現地参加者の姿勢である。政府関係者・報道関係者を招聘しての大々的な開催体制にはじまり、発表・報告等プログラムの構成から参加者の聴講・議論に至るまで、国家規模でオープン化の時勢を形成しようとする意気が見て取れた。コーディネーターの **Susmita** 氏も、会議の成果として **National Open Access Policy** 策定推進の一助となったことと、報道等⁴を通じた一般市民への認知度向上を挙げている⁵。研究者・大学図書館等の関係者に留まらず、更に広範なコミュニティ全体でオープン化を推し進めるために働きかけている点は、日本での **OS** 推進においても見習うべきと思われる。

このほか、**Session-2** などで強調された教材公開を中心としたオープンエデュケーションや、研究データに限らない様々なデータの公開・流通など、**OS** をより広義に捉え、活用していこうとする向きが感じられた。現在、**JPCOAR** の活動においては、学術成果物およびその生産の過程で生じた研究データ等のオープン化推進に注力しているところではあるが、**OS** 自体がより多くの概念を孕むものということを念頭に置き、将来的な更なる発展を見据えた上で活動に取り組むべきということを改めて認識させられた。



ダッカ遠景

以上

¹ East West University Library. “Department Wise Resource Portal”: <http://lib.ewubd.edu/article/department-wise-resource-portal-inaugurated-ewu-library> (2019年6月13日閲覧)

² Government of Bangladesh. “a2i – Access to Information”: <https://a2i.gov.bd/> (2019年6月13日閲覧)

³ Bangladesh Open Data: <http://data.gov.bd/about-us> (2019年6月13日閲覧)

⁴ Banglatribune. “Speakers for open access policy in Bangladesh”:
<http://en.banglatribune.com/tech-and-gadget/news/32680/Speakers-for-open-access-policy-in-Bangladesh> (2019年6月13日閲覧) 他

⁵ The Librarian Times. “An exclusive Interview with Dr Susmita Das”:
<http://www.thelibrariantimes.com/volume-05/lets-make-our-minds-open-an-exclusive-interview-with-dr-susmita-das/> (2019年6月13日閲覧)

【その他参考情報】

- COAR. “Asia OA Meeting - 2019” (一部発表資料有) : <https://www.coar-repositories.org/community/asia-oa/asia-oa-meeting-2019/> (2019年6月13日閲覧)
- The Librarian Times. “Bangladesh is going ahead based on four pillars – Zunaid Ahmed Palak”:
<http://www.thelibrariantimes.com/volume-05/bangladesh-is-going-ahead-based-on-four-pillars-zunaid-ahmed-palak/> (2019年6月13日閲覧)
- Annie Cruze. An overview on Asia Open Access, Dhaka 2019. Open Access Bangladesh Bulletin. 2(1), 2019, pp.1-3: <http://www.openaccessbd.org/bulletin/15.pdf> (2019年6月13日閲覧)